

2014年度 世界マスター BP 大会報告

文・写真：

IPF 国際審判・Team Ponze 代表

物江 毅

今年で 14 回目となる世界マスター BP 大会は 4/17-19 の三日間、イギリス・ニューキャッスルで開催された。参加約 30 か国・エントリー 271 名が世界中から集い、フレンドリーな雰囲気の中熱戦が展開された。

今回の日本選手団は 39 名、4/15 10:50 に成田から BA006 便で出発、成田→ロンドン・ヒースロー空港→ニューキャッスル空港という旅程でトランジットを含めて約 18 時間後、現地時間 4/15 20:00 に宿舎の Village Hotel にたどり着いた。昨年のプラハが 25 時間という異常な旅程であったのに比べると、まずは標準的な時間であろうか。時間・費用的にはアムステルダム・スキポール空港経由が一番経済的であるが、帰路にロンドン観光を入れた事から、まずはベストチョイスというところであろう。ただし、ロンドンの Hilton Hotel を含め、宿泊代が全体に高めで、私は世界大会旅行予算として毎年約 30 万円計上しているが、今回は旅行代理店に支払うだけでもほぼ 30 万円、現地での食事とやはりこんでしまった土産代などを含めると 40 万近い出費となり、まだ年金半分受給者の私にとってはかなりの負担であった。

タワーブリッジ、ロンドン観光を楽しむ日本選手団





宿舎の Village Hotel から会場の Holiday Inn までは、車でかなりの速度で飛ばして 15 分程度、徒歩なら 2 時間はかかるうかと思われ、徒歩での移動は早々に諦めた。Village Hotel は、豪華ではないが、世界大会で過去 7 回経験した宿舎と比較すると上位に位置する印象だ。私の部屋は新館であったため、キングサイズベッド・浴槽の広いバスルームなど十分なスペースであった。

初日 (4/17)

男子 59-66kg 級、女子 47-52kg 級、男子 74kg 級が行われた。

私は最終の 74kg 級 M3 に出場のため、昼過ぎに会場入り、既に 59-66kg 級の M2-4 は終了、又 M1 については検量待機中で試合が見られず、結果と伝聞したコメント・ビデオ映像による検証を記載させていただく。

59kg 級

M1 吉野公二選手 (個人・初参加・ストロングラインで BP シャツ練習)

第一試技ノーギアで 102.5kg を挙げ優勝確定後、第二試技 140kg に成功。初出場であるが、冷静な試合運びで、ご自分の試技終了後及び 4/18, 19 の両日も選手セコンド & サポートを一生懸命にしておられた。

M2 石渡啓之選手 (パワーハウス)

140kg で優勝、優勝確定後の第三試技では 175.5kg の世界記録に挑む元気さであった。

今回もご夫婦で参加された。とても感じが良いご夫妻だ。

M4 大瀧順巳選手 (スーパークラブ名古屋・初参加)

82.5 × 95-95 と二試技成功し優勝。今大会好調の 1942 年生まれトリオの一角。

ロンドン観光の世界遺産めぐりに「凄い！圧倒される」と感激しておられた。

66kg 級

M1 栢山隆選手 (K's GYM・初参加)

アメリカ・Jeffrey 選手、フランス・Olivier 選手との接戦を制し、見事初出場 & 初優勝。素敵なお二人とお二人で参加。栢山さんは、他の選手の UP の際、とても積極的にサポートに入り、私の UP の際にも、肘の角度や肩甲骨の寄せなどに細かいアドバイスを下さった。お蔭で良い結果を出せ、大変有難かった。

同級 高橋恵介選手 (BIG GUNS)

挙げれば即優勝決定の 222.5kg に挑み、残念ながら失格。ただ、第二試技に関しては、陪審員は全員成



という見解であったと後にうかがったが、現場にいなかった事から、帰国後ユーチューブの動画を確認。
両

サイドの副審がほぼ完璧な試技に赤を点けていた。しかも画面に映っている左サイド副審は、椅子から離れ、1.5 m程左手前に移動(この行為だけでもルール違反だ)して判定をし、赤の理由を示すナンバーカードも提示せず、陪審員のガストン IPF 会長に確認され、肘の不延伸というジェスチャーをしていた。

世界大会で何ともお粗末なレフリーがいたものである・・・。

恵介さんもご自分の試技終了直後から、各選手のセコンド・サポートに積極的に入り、日本でも指折りのシャツ理論と実践を日本選手各位に伝授しておられた。複数の選手が「とても参考になった」「今までとは次元が違うシャツテクニックを教えていただいた」という感謝コメントを発していた。

M2 矢野秀幸選手 (ヤノパワージム・初参加)

第一試技 172.5kg を落としたが、第二試技で同重量成功、第三試技では 182.5kgにも成功し、2 位に 17.5 kgの差をつけて圧勝。伝説の強豪の力を見せつけた！

M3 佐藤恵二選手 (パワーハルクジム)

155-162.5 と順調に成功し、優勝が確定した第三試技では、171.5kgの世界記録に挑む元気さであった。世界大会 4 勝目。佐藤さんには私の試技の際メインセコンドに入っていたいただいた。とても的確な試合状況判断 + 重量選択により好結果を残せた事を感謝したい。「佐藤さん、優勝おめでとうございます。メインセコンドに入っていたいただき有難うございます」

同級 市川勇選手 (Power BOMB! GYM)

第一試技で 135kgに成功、見事三位に輝いた。毎回事ながら、ご自分の試合後写真やビデオの撮影に大忙しで、帰国後 Face book に大会&観光写真を数 100 枚 UP しておられた。本当に頭が下がる行為である。

M4 赤木英治選手 (個人)

今回もトレードマークのノーギアで出場された。4/5 には東京都春季 PL 大会で 9 試技こなし、僅か二週間弱で今大会に出場という強行軍であった。アメリカの Ivan 選手と競り合い、110kg同記録体重差で惜しくも 2 位であった。6 月に南アフリカで開催される世界クラシック PL 大会にも出場されると伺った。本当にタフな赤木さんであった。



ここからは通常の観戦レポートをさせていただきます

女子 47kg・52kg級

47kg級 M2 新井菟子選手 (スーパーパワーアサマ TC)

M4 奥村正子選手 (新日鉄住金鹿島)

52kg級 M1 宮本智子選手 (ヴィテンのいち)

M2 増山朱美選手 (健宝の湯)

M4 古川芳子選手 (K's GYM 横浜)

初出場の古川さんを除き全員昨年プラハ大会の世界チャンプという豪華布陣であった。

日本女性陣営で最初に登場したのは今大会出場女子選手最年長の奥村さん、昨年よりもやや調子が落ちているという事であったが、第一試技 40kgに挑んだ。主審のプレスコールがやや遅いと感じられたが、順調にプレスし成功、二連覇をこの瞬間に決めた。第二試技 42.5kgは胸から押し上げの際プレス方向がやや首側にずれて二段挙げとなり不成功であったが、第三試技で同重量に頑張っって成功した。成田での出発待ち時間に少し話を伺ったところ「世界大会は来年のデンバーで一区切りをつけようと思っています。新たな目標として、2020年東京オリンピック・パラリンピックの際に、聖火リレーメンバーとして茨城県内を走りたいです」と抱負を語っておられた。

人生の大先輩奥村さんの前向きな姿勢、本当に素晴らしい事だ。

奥村さんの後に登場したのは初出場古川さん、BP シャツを着たのが本年 1 月からという驚きの経歴であるが、落ち着いて試技をし、第一試技 55kgをきっちり取り、第二試技は 60kgの世界記録に挑まれ軽々成功、優勝が確定した後の第三試技では更なる記録更新を目指し 62.5kgに挑戦し、胸からステッキンポイントまで、第二試技よりもややプレス速度は落ちたが、これも成功。試合後話を伺ったところ「いつも佐藤優輝さんに、BP シャツが下手だと叱られています」と笑顔で語って下さった。とんでもございません、本当に全試技、素晴らしかったです。

古川さんは M4 のベストリフター 2 位にも輝き、表彰式で大きなトロフィーを授与されていた (大きくて持ち帰りにくいとおぼしておられが・・・)。

一昨年のデンバー、昨年のプラハと安定した試技で二連覇している宮本さんは、第一試技 95kgと軽めに入り順調に成功、ただ第二試技 97.5kg、第三試技 100kgをいずれも押切れず失敗、ご自身不本意な優勝であった。



帰国後 Face book のタイムラインで会話したが、「全然ダメでした。鍛えなおします！」と語っておられた。

常勝の新井さん・増山さんはそれぞれ 100kg・105kgから試技開始。お二人とも成功すれば即優勝確定、自力からすれば楽勝の重量のはずだった。ところが試合というのは本当にやってみなければ判らない。お二人とも第一、第二試技を落とすという予想外の展開となった。新井さんは第一試技、バーが胸に付きづらかったようで、バーを引いて胸につけたため、胸が下がり押せず。第二試技では、プレス軌道がずれ挙上途中でバーが下がり失敗。背水の陣で臨んだ第三試技、やや軌道を腹寄りに変え、同重量を押切った。判定は？…白3。試技後新井さんは涙を流しておられた。世界大会常勝女王にとっても、この第三試技は大変なプレッシャーがかかっていたようである。

新井さんと全く同じ立場の増山さん、第一、第二試技ともフィニッシュ時、左が二段挙げとなり、バーの下がりを取られ失敗判定、第三試技はしっかりブリッジが決まり 105kgを押切り優勝。

初日登場の日本女子選手全員が優勝という最高の成績であった。

男子 74kg 級

M1 鈴木重成選手(個人・初出場) 古川公一選手(K's GYM)

M2 三島忠選手(K's GYM)

M3 物江毅選手(Team Ponze)

M4 安居民雄選手(高岡トレーニングクラブ) 緒方学選手(B・P・S)

試合は、M3 - 4 の部から開始された。

今大会世界戦初出場の安居さんは、落ち着いて試技をされ、100 - 107.5 - 112.5 と三試技とも成功、見事4位に入られた。安井さんとは試合前後に色々会話させていただいたが、私より10歳年長にもかかわらず、とても腰が低く謙虚なお人柄に惹きつけられた。且つ向上心も強く、今大会で経験した世界のBP シャツ技術を吸収し、大舞台にこれからも積極的に出場したい旨、抱負を語っておられた。

M4の常勝チャンプ・世界記録保持者の緒方さんは、試合前「今回、肩の故障で満身に練習出来ていません」と語っておられた。試合では本来UPの重量の130kgから入られたが、残念ながら三試技とも失敗、記録なしという結果となってしまった。故障を直し是非とも次回以降世界チャンプの定位置に復帰していただきたい。

M3の物江は、一昨年、昨年と第三試技のみかろうじて成功し、失格をまぬがれていたが、今大会、メインセコンドに入ってくださった佐藤恵二さんの好サポートにより、157.5kgという低調な記録ながら結果的には余



裕の勝利であった。昨年2位のフィンランド・Michel選手、一昨年3位のフランス・Antero選手との勝負であったが、三人中、エントリー記録はトップ、体重が一番軽く、なおかつロット No は一番後ろという幸運に恵まれ、楽な試合展開となった。第三試技に入る直前に優勝が決まったので、急逝された岩上さんを想い

「岩上さん、観ていますか？」

とつぶやき試技に入った。きっとどこかで見守ってくださったはずである。

M2の部では、久しぶりに出場の「浪速のテクニシャン」三島さんが登場、フィンランド・Erkki選手とのガチンコ対決となった。三島さん第一試技205kgは挙上途中でやや二段挙げとなり失敗。Erkkiさん207.5kgに成功。三島さんは第二試技で205kgを落ち着いて取り(ただ、第一第二試技ともプレスコールに対してややフライング気味なのが気になった)、Erkkiさんは212.5kgの世界記録に挑み失敗、三島さん第三試技で世界記録の212.5kgに挑み、フィニッシュでわずかに右が遅れたが成功、Erkkiさん0.5kg増量し213kgに挑むも押切れず失敗で決着がついた。

M1の部では、初出場の鈴木さんが登場、自力からすると楽勝のはずの200kgに挑んだ。ところが、第一、第二試技とも押切るも試技が安定せず、赤判定。第三試技では、失格のリスクもあるが成功すれば暫定3位の207.5kgに挑んだ。ベンチに横たわりバーベルを受け取ろうとする鈴木さんに対してセンター補助をしていた英国JRチャンプが頭に触れ、もっと後ろにズレろというアドバイスをし、横たわる位置をやや足よりにずらし試技スタート。決してスムーズではなかったが、鈴木さん同重量を最後まで押しきった。判定は、白3!

BPラックから立ち上がった鈴木さんは歓喜の雄叫びを発した。結果見事3位となり表彰台に立った。

一方、優勝の可能性充分の出場二回目の古川さん、第一試技207.5kgをととても良いフォームで挙げ勿論成功、ところが手堅くいったつもりの第二試技215kgが挙上途中僅かに二段挙げと成り、白1:赤2の失敗判定。第二試技終了時点でトップはフランス・Alphonse選手220kg、二位は英国Phillip選手217.5kgであった。第三試技古川さんは挙げれば暫定トップの220kgを申請、生力で200kg近い古川さんにとって、大した重量ではないはずだ。ところがこの重量を押切れず、大変悔しい4位という結果に終わってしまった。フランス・英国の二人も第三試技222.5kgに失敗し、1,2位はそのままであった。

鈴木さんと古川さん、一昨年の全日本MBP高知大会では、鈴木さんのほうが強いという印象であったが、昨年北九州大会では力が逆転したように感じられた。たた、お二人とも自力が強いがシャツ技術がやや未熟という事



あろうか。古川さんは最高のお手本児玉さんがおられるのだから、シャツを毛嫌いせず研鑽しノーギア・フルギア両方の最強を目指していただきたい。

鈴木さんは、今大会で接点が出来た高橋恵介さんや、パワーハウス野田さん、ストロングライン福田さんといった関東のシャツ職人のノウハウを学び、次回お二人で表彰台の中央を争っていただきたいという感想を持った。

二日目 (4/18)

女子 57 - 63kg 級

57kg 級 M1 酒巻知子選手 (ストロングライン)

M2 水野文江選手 (ゴールドジム名古屋金山)

M3 中沢久美子選手 (Max トレーニングジム)

63kg 級 M1 工藤智恵子選手 (マッスルプロダクション)

M3 澤千代美選手 (パワーハウス)

57kg 級で最初に登場したのは、ディフェンディングチャンプ・中沢さん。

中沢さんと私は世界マスター BP 大会初参加が 2006 年マイアミ大会で同期生、初優勝も 2013 年プラハ大会という事で、今回「河部食堂」でも大変楽しく談笑させていただいた。今大会後に肩の手術をされるという中沢さんであるが、第一試技 57.5kg と軽めに入り順調に成功し二連覇決定、第二試技 62.5kg にも成功された。肩の故障を直し、一日でも長く競技を続けていただきたい。

M2 の水野さんは、この一年間昨年の悔しさを晴らすべく BP フォームの改良に取り組んだ。UP 場でもとても落ち着いており、好結果が予想された。第一試技 82.5kg を完璧に決め、トップに立つ。そのまま、第二試技 85kg、第三試技 90kg に成功、一度もトップの座をゆずることなく世界チャンプに返り咲かれた。

酒巻さんも昨年 5 連覇で連勝が途絶え、再起を期してこの大会に臨まれた。今大会二ヶ月前から私は BP シャツの練習をストロングラインで行う事を主体としたが、水曜日午後と同ジムの会員である酒巻さん、ビジターの吉野さんとご一緒する事が多かった。ただ、時間が微妙にずれており私の練習後半に吉野さん、終了間際に酒巻さん来場というケースが多かった。

世界の女王である酒巻さんの練習は、明日のチャンプを夢見るストロングラインの若き選手達もとて



も参考になる様で、ジム内で皆の注目を集めていた。今大会に向けての調整も順調であった。酒巻さんは 100 - 105 - 110 と三試技とも成功、水野さん同様一度もトップを譲らない圧勝であった。

酒巻さんは次回デンバー大会では M2 となられる。

今大会以降新たな連覇目指して今後も頑張ってください。



63kg 級 M1 に出場した工藤さんは世界大会初出場。

昨年の兵庫での二つの全日本大会 (BP と PL) では、副審に入った私からすると、やや不安定な試技をされる選手という印象であった。今回 UP 場で拝見したところ、見違えるよう身体の軸が通り、安定したフォームであった事に感心し、彼女の試合に対する期待が高まった。第一試技 80kg と軽めに入り、初の世界大会とは思えない落ち着いた試技でこれに成功、第二試技 85kg もほぼ同様な安定した試技で成功した。

第二試技終了時点で工藤さんは 5 位であったが、シャツをエクストリームに着替えて、成功すれば暫定 3 位となる 95kg に果敢に挑戦。この重量は練習でも挙げた事がないとの事であったが、工藤さんはやや不安定な挙上ながらも同重量を押しきった。判定は残念ながら失敗であったが、大健闘である！試合後話を伺ったところ「今持っている力を出し切れたと思います」と会心の微笑で語っておられた。来年のデンバー大会では 100kg の大台超えと表彰台を目指していただきたい。可能性は充分にある。

世界大会無敗の女王澤さん、今回はご主人と同行された。試合の方は第一試技 95kg 成功時点で優勝確定。第二、第三試技で 105kg に挑まれた。主審の右斜め後ろから写真撮影していた私の目からは、充分フィニッシュしているように思われたが、副審二人が肘の不延伸という理由で赤を出し、失敗となった。それでも楽勝で世界大会 15 勝 (日本が途中参加しなかった一回を除きエントリークラス全勝、M2 と M3 のダブルでの勝利を含み) を達成された。毎回の事ながら試合場や河部食堂で澤さんには大変お世話になり本当に有難かった。健康のため、57kg 級への減量も視野に入れられるとの事であったが、中沢さん同様まだまだ長く現役を続けていただきたい！



男子 83kg 級

M1 新屋敷弘明選手 (パワーハウス)

M2 石本直樹選手 (岩崎 BC 津山)

今大会世界戦初出場者の一人である新屋敷さんは、その穏やかなお人柄・丁寧な立ち振舞いで誰からも好かれる好漢である。生の力も 170kg 半ばとお強いが、ここ数年故障に悩まされ試合でなか





なか結果を残せなかった。今回体調も大分回復し世界戦初挑戦となった。第一試技 190kg と軽めに入り成功、第二試技 200kg にも成功された。第三試技自己新となる 210kg は不成功であったが、上述の工藤さん同様大健闘と言えるであろう。シャツ技術を磨けば、自力からして上月さんと同じ位の 230～240kg は可能で、充分表彰台に立つる力はある。頑張っていたきたい。

石本さんは、今大会も団長・審判員・選手の三役、更にはセコンドを兼ねて、試技に集中しづらい状態であったよ
うで第一、第二試技で 205kg に失敗。挙げれば優勝の可能性があった第三試技 207.5kg は胸から動かなかった。
やはり兼任はせめて二役にすべきであろうという感想を持った。

女子 72・84・+84kg 超級

+84kg 級 M1 小松麻美選手 (有光自動車)

今回で二度目の世界戦となる小松さんは、二年前のデンバー大会で世界の重量級との力の差を痛感し、昨年のプラハ大会出場を回避、満を持して今大会は表彰台を狙っての出場となった。第一試技安全策であった 95kg にまさかの失敗、第二試技で落ち着いて同重量に成功し、第三試技では成功すれば暫定三位となる 110kg に挑戦、残念ながら押切れず 4 位という結果であったが世界のヘビー級の中で、表彰台に手が届こうという試合をされた事はやはり大健闘であろう。ちなみに、女子ヘビー級の優勝者の記録であるが

84kg 級

M1 Ielja 選手 (オランダ) 172.5kg 男子選手顔負けのもの凄い筋量の持ち主

M2 Jacqueline 選手 (英国) 117.5kg

M3 Hana 選手 (チェコ) 140kg

+84kg 級

M1 Katarina 選手 (フィンランド) 160kg

M2 Deborah 選手 (米国) 165kg 体重 124.4kg の巨体

といったハイレベルであった。

このセッション、私は左副審に入らせていただいた。あまり難しい判定は無かったが、ビデオで試技をチェックしたところ、ストロークが長い選手が非常に多く、身体の大きさを含めて日本国内ではとても見られない試技の連続であった事を改めて認識した。

男子 93kg 級

M1 葛西昌彦選手

(K's GYM)

M2 佐藤和則選手

(BIG GUNS)

北川武志選手

(K's GYM)

M3 飯島 修選手

(パワーハウス)

M4 河部勝次選手

(コベルコ

トレーニングクラブ)



日本選手5名が出場、各クラスで優勝争いを繰り広げるであろうと予想していたが、期待に違わぬ熱戦が展開された。

このセッションでも M3-4 が先に行われた。

日本選手団の兄貴分の大ベテラン河部さんは落ち着いて試技をし、155-160 と順調に成功。相手は常連の Daniel 選手 (ベルギー) で第一試技 152.5kg にややロックが甘いが成功。Daniel さんは第二試技で 160kg もフィニッシュしたが、こちらは第一試技よりさらにロックが甘く赤判定。第三試技で Daniel さんが 160kg に失敗した時点で河部さんは優勝決定、最後は 162.5kg に挑んだがこちらは押切れなかった。

今回も河部さんは超過料金を払ってトランクを二個持参、うち一個は食料で満たされており、恒例の「河部食堂」を開店した。常連客は奥村さん、澤さんご夫妻、私、佐藤恵二さん、中沢さん、新井さんといったところで、本当に毎晩楽しい BP 談義に明け暮れた。

今大会も楽しい時間を有難うございました！

今大会から M3 の飯島さんは、優勝を狙い第一試技 200kg を順調にプレスしトップに立つ。相手はエントリートップ記録を持つ Arne 選手 (ノルウェー)、同じく第一試技で 200kg に成功、体重は飯島さんの方が軽い。第二試技で飯島さん手堅く 205kg に挑むも、プレス軌道が胸からの突き放し直後にやや首側にズレフィニッシュ出来ず。Arne 選手は 207.5kg を押切ったが二段挙げで失敗。第三試技に入り 3 位だった Ilkka 選手 (フィンランド) が自己記録を 7.5kg 上回る 202.5kg に成功し、トップに躍り出る。飯島さんは 205kg の同重量に挑むという選択も

あったが、207.5kg を選択、残念ながら押切れず 3 位という結果となった。優勝は第三試技で 207.5kg に成功した Arne さんであった。飯島さんは M2 時代常に北川さんが立ちはだかり、M3 となった今回優勝のチャンスであったが、第二試技 205kg 失敗の際、やや粘ったのが裏目に出てしまった。優勝する力は充分に持っておられる。次回デンバーでは是非ともリベンジしていただきたい。



M2 では、Frans 選手 (オランダ) の力が抜きん出ており第一試技から M2 世界記録の 245kg、第二試技 250kg にいずれも成功、ほぼ優勝を決めた。

佐藤さんは世界マスター BP 大会初出場であるが、三種の強豪でもあり、BP でも 230kg 半ばの力を持っておられる。今回、セコンド高橋恵介さんの好サポートもあり、落ち着いて試技をし 222.5-230 と成功後、第三試技 235kg も僅かに右が遅れ気味であったが頑張っって押切り成功、見事に 2 位を獲得された。

一方の北川さんは世界マスター BP 大会 M2 日本選手団の顔といった存在で、実績・知名度も抜群であり、顔なじみの各国選手と初日から談笑しておられた。今回第一試技 232.5kg はバーが胸につかず失敗、第二試技 237.5kg はバーがやっと胸についたかと思ったら、主審が「ラック」と発声してしまい、陪審員からチェックが入り再試技となった。再試技で北川さん同重量を勢いよくプレスしたが、僅かにロック出来ず赤判定。第三試技 240kg に増量し二位を狙った。再試技を含め、一番スムーズに胸に付いたバーは第二試技よりもロック出来ている様に見えたが、僅かに腰が浮き赤判定、残念な失格となってしまった。

M1 に出場した葛西さんは、今回余裕の横綱相撲、255-265-272.5 と三試技とも完璧に成功した。腹ベンチ反則ルールがなくなったため、バーをかなり腹寄りに付け、そこから安定してプレスする。まるで昨年のプラハ大会再現の様であった。また、体重差ではなく絶対重量で完勝するという児玉さん・中山さんの王道主義を踏まえて第三試技 272.5kg に成功し完勝、M1 ベストリフターでも 3 位に食い込んだ。次回デンバーでは是非とも米国最強のデニス・シエリに挑戦してもらい、雌雄を決していただきたい。私は、出来ればその試合で主審を勤めたい！

男子 105kg 級

M1 岡山三紀選手 (北海道医療大学 WTC 同門会)

M2 和田高平選手 (烈剛河内)

長丁場の二日目の最終セッションである。個人的には二年前デンバー大会で悔しい思いをした和田さんがどんな試合をして下さるか注目していた。エントリー記録 280kg でトップの昨年プラハ大会同級チャンプ Marius 選手 (ポーランド) とのガチンコ対決が予想されたが、まさにその通りの試合となった。第一試技和田さん 272.5kg、Marius さん 275kg と各々やや軽めに入り、共に難なく成功。第二試技もお互い 5kg UP と手堅い申請であったが、和田さんこの 277.5kg、拳上途中にプレス軌道を外し失敗、Marius さんは 280kg に成功。ここで和田さんは第三試技で M2 世界記録となる 285kg を申請、Marius 選手も同重量を申告した。運命の第三試技和田さんは、この 2 年間の想いを結集するかのような見事な集中力で同重量に成功。すかさず体重が重い Marius さんは 287.5kg に重量変更し、これに挑むが押切れず勝負あり。今大会和田さんの検量体重は 104.1kg、二年前のデンバーでは 139.74kg であった。実に 35.6kg もの減量に成功し、なお且つデンバーで失敗した 285kg に成功し、世界記録も樹立した和田さん、いくら賞賛しても足りないほどの素晴らしさである。サヨナラパーティーで M2 のベストリフターにも選出された和田さんは「優勝・世界記録・ベストリフターでもうやり残した事は有りません」と言っておられたが、和田さんのファンとして「(世界大会で)300kg を挙げて下さい！」とリクエストさせていただいた。

岡山さんは今会副団長を勤められ、とても献身的に動いておられた。昨年までは 120kg 級で出場して



おられたが、今回表彰台を狙い減量して1階級下の105kg級にエントリー。

岡山さんの第一試技は235kg、いつもの気合充分な中に落ち着きを感じさせるしぐさでベンチ台に横たわり同重量に難なく成功、第二試技はシャツを着替えたのか(実はユーチューブのビデオ映像が105kgのM1,2だけ存在せず確認出来なかった)第二、第三試技で17.5kg UPの252.5kgに挑んだがいずれも失敗し残念ながら4位という事で表彰台には届かなかった。3位になったMike選手(米国)の記録が245kgでしかも岡山さんより体重が重かった事から、もう少し慎重な試合運びをしておられたらという気もするが結果論であろう。

三日目 (4/19)

120kg級

M2 古城資久選手(パワーハウス赤穂)

世界マスター BP 大会4勝の古城さん、初日及び二日目の中盤まで献身的に他の日本選手のセコンド・サポート・試技中の声掛けをしておられ、本当に好感が持てた。今大会、米国の強豪 Doan 選手(彼の娘が父親の試技中に連呼する Go! Daddy, Go! で大会常連出場者にはお馴染み)が本年から M2 になり参戦してきた事から、熱戦が予想された。

その Doan 選手 2009 年ニュージーランド・タウポ大会以来5年ぶりに見たが、バードレイノルズ似の渋いハンサムガイは、体重増加のためか少々顔が丸くなり、好々爺に近い印象となっていたが、力は衰えていなかった。むしろ体重増加により、以前は110kg級で270kg台の持ち記録であったが、今大会はエントリー記録が287.5kgになっていた。今回 Doan さんの娘は来場しておらず、連呼は聞かれなかったが277.5-282.5と順調に取り優勝が決まった第三試技、286kgのM2世界記録に挑戦、見事に同重量を押しきり、優勝に花を添えた。流石に千両役者だ。

古城さんは帰国後ご自身のブログで試合内容を詳しく報告しておられた。第一試技262.5kgは軽く成功、第二試技267.5kgに失敗して、Doanさん、Klingerさんの米国勢の一角に食い込むというよりも、三位死守方向に意識が行ってしまわれたようだ。第三試技280kgを申請し様子見とし、途中272.5kgに変更したまでは良かったが、3位狙いのライバル達が第三試技を失敗した時点で優勝を狙うなら285kg、二位狙いなら280kgに再訂正すべきであったろう。ただ、ライバル失敗後すぐの試技で着替え時間が無かった事も不運であった。Doanさんと古城さんは6歳の年齢差があり、これはかなりのハンデであったと思われる。50代後半に入った選手と今年50になる選手と



では、かなり体力差があっても仕方がない事である。古城さんご自身は今大会結果に不満足であろうが、健闘されたと言っても良いのではなからうか。

+120kg級

このクラス日本人選手の出場は無かったが、私は世界マスター BP 大会で一番迫力があるこのクラスは、必ず観戦するようにしている。今回、Village Hotel までの送迎バスが 120kg 級終了後に出ると添乗員の神原さんから促されたが、残って観戦する事にした。安居さんと新屋敷さんが付き合っ下さった。

平均ストロークが 70cm はあろうかと思われる大男達が、300kg を超える重量に挑む姿はまさに圧巻で、中でも M1 にエントリーした米国の Jeffrey 選手は何と体重 240kg、多分秤の測定限界を超えていたのではないかという超巨漢、あの巨象 Gaudreau 選手が小柄に見える程であった。322.5kg の今大会最重量に挑み、惜しくも三試技とも失敗であったが、会場は大変な盛り上がり、サヨナラパーティーでも各国選手から記念撮影のリクエストで大モテだった。M1 の優勝は Jaloslav 選手 (チェコ) で記録は 310kg であった。

M2 クラスでは、上述の Gaudreau 選手がチームメイトの William 選手と第三試技で世界記録更新合戦の末 306.5 kg に成功、優勝と世界記録のダブルの栄冠に輝いた。

こうして大会は終了、フレンドリーな雰囲気のリフターの発表が行われ、で団体優勝、M3 出場者ががら 2 位となり、昨年プ覇の再現はならなかった女子は M1, M2 とも 3 位が 3 名の出場であったの

個人戦では男子 M1 でんが見事ベストリフターんがベストリフター、増が 2 位、M4 で古川さんが 2 位とこちらも大健闘であった。



夜のサヨナラパーティーは中、団体戦成績及びベスト Team Japan は男子 M1, M2 4 名だったことから、残念なラハ大会での三階級完全制が、健闘と言えるであろう。であった。M1 が 4 名、M2 で、やはり大健闘だる。葛西さんが 3 位、M2 和田さに輝き、女子 M2, で新井さん山さんが 2 位、M3 で澤さん

4/19 早朝ニューキャッスルからロンドンに移動して、一日ではあるがロンドン観光を楽しんだ。当日はいかにもロンドンという驟雨であったが、ロンドン塔、タワーブリッジ、バッキンガム宮殿、ウエストミンスター寺院、ビッグベン、国会議事堂、大英博物館と急ぎ足で回り、個人的には昨年のプラハよりも建造物の規模が大きい世界遺産に感銘を受けた。

余談であるが、ロンドン塔からバッキンガム宮殿に移動途中にガイドが「これからウォルターブリッジを渡ります」と説明した。1940 年の映画、邦題「哀愁」の舞台となった橋であろうと思い、バッキンガム宮殿前で質問したところ、やはりそうであった。ガイドは「哀愁」の事も知っていた。主演はヴィヴィアン・リーとロバート・テイラー。前年 1939 年の「風と共に去りぬ」では、ただ気の強だけの嫌な女という印象のヴィヴィアン・リーであったが、この映画では儂くも美しく、戦争に翻弄され悲しい結末を迎える女の性(さが)を見事に演じていた。1972 年当時阿佐ヶ谷に住んでいた私は、杉並公会堂で新聞店から貰ったチケットで鑑賞した。今でも心に残っている名画で、その舞台となった橋を渡った事は感無量である。

今回旅行代理店は HIS で添乗員は神原千春さんであった。今回の様なスポーツイベント及び一週間以上のツアーにはあまり慣れていないという事であったが、一生懸命に我々の世話をしてくださった。試合最終日頃からかなり疲れておられたようであるが、最後まで笑顔で我々をサポートしてくださり、とてもいい印象であった。

今回も素晴らしい成績を残した Team Japan、来年の米国コロラド州・デンバー・オーロラ大会でも健闘を期待したい！！